

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502314		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム 健寿館		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1番37号 (電話) 011-897-5699		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月21日	評価確定日	平成22年1月5日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム健寿館」は新札幌駅から車で5分程と交通の便も良く、法人である病院に隣接しているため医療面でも充実したグループホームである。管理者は常にケアの向上を目指し、利用者一人ひとりを大切に職員教育にも熱心で、毎日カンファレンスを行い、事例を通して細かく対応を指導することで職員は安心してケアを行うことができている。職員の資格取得も年間計画を作成して取り組むなど職員育成に力を入れている。利用者の認知症症状の改善や進捗が押さえられるなど管理者や職員の的確なケアが行われている。また日常生活の中で、身体機能の向上や病状の安定、急変時の早急対応を目指して日々温かなケアに努め、利用者も穏やかな表情で生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>一般職員の他のグループホームとの相互訪問は、今年度新人職員が多く、日々の業務に慣れることが中心でゆとりがなく、積極的な取り組みができなかった。相互訪問の重要性を理解しており、今後も継続して取り組んで行く意向である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を除いた職員全員で1ヶ月程かけて自己評価表の項目毎に話し合い、記入したものを管理者がまとめ上げて作成している。今年度は新しい職員も多く、経験年数により評価に対する認識度に差があるが、日々のケアの見直しのためさらに自己評価を役立てる意向である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年度は年間5回を予定して定期的に地域包括支援センター長、利用者、家族などが参加して行われているが、地域代表者の参加は得られていない。事業所の行事報告、入退職者の報告などの他に出席者から要望や意見を募っているが、殆ど出されない現状である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族が来訪した時に利用者の様子を報告すると共に、事業所便りを毎月発行して全体の様子を写真などで報告したり、個々の様子を担当職員が記入して家族に郵送している。家族の来訪時には家族の思いや意見を聞くように会話を心掛けている。家族から意見や苦情が出された時は記録に残して、全職員で話し合う方針である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域連携の重要性は認識しているが、立地環境もあり、現在は地域活動に参加する機会はない。しかし近くの公園に散歩に出かけて近隣住民と会話をしたり、デイサービスの催し物に参加して幼稚園の子供達との交流が行われている。来年度に事業所の移転計画があり、今後は地域活動に参加し近隣住民との交流を深めていく予定である。</p>

【情報提供票より】(平成 21年 11月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 10月 25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人、非常勤 2人、	常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~52,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:15,000円	
敷金	(有) 50,000~52,000円)	無	暖房費:9,000 円(11-3月)	
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) ()	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり	1,300	円	

(4) 利用者の概要(11月 27日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 74 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル・新札幌ウイメンズクリニック・平岡公園こじま歯科クリニック
---------	---

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人を大切に」「支え合う心」「安心して暮らせる社会作り」「地域との交流を深めながら、孤立することなく生き生きと暮らせる」という、地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用開始時に家族に説明すると共に食堂と階段に掲示されている。申し送り時や日々の業務の中で理念を具体的なケアに結び付けて管理者が説明することで職員に浸透し、日々のケアの指針となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域連携の重要性は認識しているが、立地環境もあり、現在は地域活動に参加する機会はない。しかし近くの公園に散歩に出かけて近隣住民と会話をしたり、デイサービスの催し物に参加して幼稚園の子供達との交流が行われている。来年度に事業所の移転計画があり、今後は地域活動に参加し近隣住民との交流を深めていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を除いた職員全員で1ヶ月程かけて自己評価表を項目毎に話し合い、記入したものを管理者がまとめ上げて作成している。今年度は新しい職員も多く、経験年数により評価に対する認識度に差があるが、日々のケアの見直しのためさらに自己評価を役立てる意向である。		経験年数により評価に対する職員の意識の差が見られるため、今後も説明や学習を深めていく意向なので、その取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	今年度は年間5回を予定して定期的に地域包括支援センター長、利用者、家族などが参加して行われているが、地域代表者の参加は得られていない。事業所の行事報告、入退職者の報告などの他に出席者から要望や意見を募っているが、意見は少ない。		新年度は移転の計画があるので、地域住民代表の参加や災害時の近隣援助についても議題として取り上げ、更なる有意義な会議の開催を期待したい。
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市役所を訪問し、提出書類の記入方法などを随時相談して指導を受けている。今の所、特に連携を求めような課題は持っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族が来訪した時に利用者の様子を報告すると共に、事業所便りを毎月発行して全体の様子を写真などで報告したり、個々の様子を担当職員が記入して家族に郵送している。金銭管理は、請求書と領収書を毎月郵送して報告している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情相談機関を重要事項説明書に記載して利用開始時に説明すると共に、事業所に掲示している。投書箱を設置し、家族の来訪時には家族の思いや意見を聞くように心掛けている。今まで苦情はないが、出された時は記録に残して全職員で話し合う方針である。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	定期的な職員の異動はないが、離職した時は利用者に応じて辞めたことを報告するようにしている。離職により利用者が寂しがる時は、会話を多くして楽しい雰囲気作りをするように配慮している。新しい職員が配置された時は、慣れた職員が利用者との間に入り、スムーズに馴染めるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、職員の研修参加・資格取得予定表を作成して職員の資質の向上に努めている。外部研修には、今年度新人職員が多く事業所として計画的に参加することはできなかったが、職員が自主的に参加することはあった。内部研修は、年間計画を作成して管理者が事例に基づき虐待などについて研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、札幌市や厚別区の管理者会議などにおいて同業者との交流を行っている。一方、一般職員については、今年度新人職員が多く、日々の業務に慣れることが中心でゆとりがなく、積極的な取り組みができなかった。		来年度は、一般職員も同業者との交流を深めることで、更なるサービスの向上を期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の系列病院や他のグループホームからの利用者が多く、家族のみが見学して利用開始に至ることが多いが、病院などには必ず本人に面会に行き、利用開始前に面識を持つように配慮している。利用開始時は、ゆっくり話を聞くなどコミュニケーションを多く取るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から料理の味付けや昔の遊び、仕事、風習などを教えてもらったり、子育ての相談にのってもらっている。「大変だね」「体をこわさないでね」などと労りの言葉をかけてもらうことで精神的にも支えられていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在は、自分の思いを言葉で表現できる利用者も多いが、上手く表現できない利用者の思いや意向は、日々のケアの中で、表情や仕草から把握するようにしている。新人職員には、利用者への対応を見て管理者が指導している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に入院していた病院などから情報を収集し、介護支援専門員が当初の介護計画を作成する。その後約1ヶ月後に全体像を把握して、職員間でのカンファレンスを行い介護計画を再作成している。一週間及び日課のサービス計画表も作成している。計画は家族に説明され、確認の署名捺印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の内容検証は毎日行われ、3ヶ月毎にカンファレンスの意見を集約して職員が意見交換を行い、「サービス担当者会議の要点」を作成する。検討内容をもとに介護計画を見直し作成している。疾病など健康状態の変化が生じた場合の見直しも行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>提携医療機関の受診に同行しており、管理者には看護師を配置し、健康面の支援に万全を期している。2ヶ月に1度の訪問理美容も利用できる。同一法人のデイサービスと合同の行事を行うなど活発に交流している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による月2回の診察を受けており、事業所内でも看護師である管理者を中心に常に利用者の健康状態を把握している。提携医療機関以外の受診も可能であるが要望は少ない。受診結果や健康状態を管理者から家族に適切に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当事業所ではまだ完全な看取りのケースはないが、個々の利用者の希望に沿ってぎりぎりまで事業所に対応する方針としており、利用開始時に利用者や家族と「病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、書類を取り交わしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を「お客様」として尊重し、普段の利用者への呼びかけやトイレ誘導などの際に利用者のプライバシーに配慮している。気になる対応がある場合は管理者が注意するようにしている。個人の記録などの書類は保管スペースに安全に保管・管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに午前中を活動時間、午後をお風呂や休息の時間としているが、それにとらわれずに利用者は自由に過ごすことができ、身体状況に応じて柔軟に変更している。起床時間や食事の時間、ペースなども利用者一人ひとりの希望に合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット、調理補助、下膳、食器拭きなど、できることをなるべく利用者にもしてもらっている。利用者は必要に応じて介助を受けながら食事をしており、おかゆやトロミ食なども提供されている。見守りが必要なため職員と一緒に食事をしていないが、管理者と一緒に試食するなどしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日することができ、各利用者は週2～3回程度の入浴を行っている。浴室とは別にシャワールームも用意している。音楽を聞いたり職員と会話しながら楽しく入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各部屋の掃除や、調理の手伝い、後片付けなど個々に得意なことをしてもらっている。可能な方は階段の昇降も行っている。音楽を聞いたり、体操や散歩など日々の楽しみごとを支援しており、同一法人のデイサービスとの交流も持っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化に伴い外出機会は減りつつあるが、夏場は週2回程度の散歩やベランダで食事をしたりしている。夏祭り、花見などの行事で外出したり、年に1回、全員が参加するホテルでのディナーに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関に施錠しているが日中は殆ど鍵をかけていない。各階の出入口ドアにチャイムをつけたり、数箇所にモニターカメラを設置し、居間で職員が把握できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回を目安に隣接する病院と合同で避難訓練が実施されている。避難誘導は居室の表札に他者がわかるよう担送、護送、独歩を色で識別できる折紙を掲示している。個々の利用者の応急処置について職員は管理者から指導を受けている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は食材提供会社の管理栄養士により作成され、カロリーや栄養バランスが調整された食事が提供されている。食事は殆どの利用者が完食している。水分はチェック表に記録し、1,300~1,400ccの確保を目安に、お茶や夜間に牛乳を提供するなどしている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には季節の装飾や利用者の写真などが飾られ家庭的な雰囲気を作っている。広いベランダがあり目の前の公園などの景色を楽しむことができる。段差のある箇所はスロープが設置されている。明るさは照明で調整され、温度も快適な環境を保つよう暖房機などで調整されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は比較的広く作られ、利用者が使っていた家具や馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者の好みのもを自由に飾ることができている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。